

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-268881

(43)公開日 平成10年(1998)10月9日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>  
G 1 0 K 15/04  
G 0 6 F 9/06  
13/00  
H 0 4 M 11/08

識別記号  
3 0 2  
5 5 0  
3 5 4

F I  
G 1 0 K 15/04  
G 0 6 F 9/06  
13/00  
H 0 4 M 11/08

3 0 2 D  
5 5 0 Z  
3 5 4 A

審査請求 未請求 請求項の数4 O.L (全6頁)

(21)出願番号 特願平9-75654

(22)出願日 平成9年(1997)3月27日

(71)出願人 396004833  
株式会社エクシング  
名古屋市瑞穂区塩入町18番1号

(71)出願人 000005267  
プラザー工業株式会社  
愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15番1号

(72)発明者 内藤 芳信  
名古屋市中区錦3丁目10番33号 株式会社  
エクシング内

(74)代理人 弁理士 佐藤 強

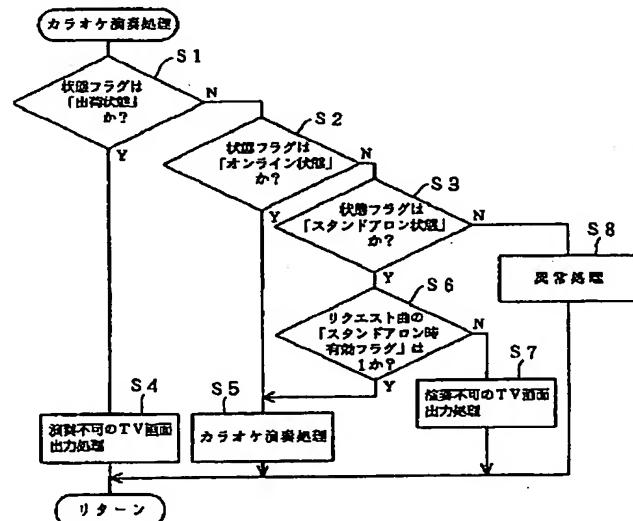
(54)【発明の名称】通信端末装置

(57)【要約】

【課題】ホスト装置への登録状態が解除されたスタンダードアロン状態となったときの、ユーザー側とホスト装置側との双方の利益調整を図る。

【解決手段】通信型のカラオケ装置は、登録状態（オンライン状態）で、ホスト装置との間のデータ通信により新曲のカラオケデータの配達を受け、そのカラオケデータを記憶装置に蓄積する。ユーザーが契約を解消したスタンダードアロン状態では、出荷時に予め記憶装置に記憶されていたデフォルト曲については、有効フラグが

「1」のまま残り、残りの曲については全て有効フラグが「0」に書き換えられる。使用者によるリクエストがあると、その曲の状態フラグが調べられ(S1～S3)、スタンダードアロン状態では(S3;Y)、デフォルト曲のみが演奏可能となり(S6;Y, S5)、有効フラグが「0」のときには(S6;N)、カラオケ演奏が不可とされ、その旨がTVモニタに表示される(S7)。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 データ端末装置本体と、ホスト装置との間でデータ通信を行うための通信手段とを備え、前記ホスト装置に対する登録状態で該ホスト装置からデータのサービスを受けることが可能な通信端末装置において、前記ホスト装置から配達されたデータを記憶、蓄積する記憶手段と、

前記ホスト装置への登録状態が解除されたスタンダロン状態では、前記記憶手段に蓄積されたデータのうち一部のデータを有効とし、他のデータを無効化するデータ無効化手段とを具備することを特徴とする通信端末装置。

【請求項2】 前記データ端末装置本体は、前記ホスト装置から配達されたカラオケデータに基づいてカラオケ演奏を実行するカラオケ装置本体からなることを特徴とする請求項1記載の通信端末装置。

【請求項3】 スタンダロン状態となったときには、据付時に記憶手段に予め記憶されていたカラオケデータのみが有効とされることを特徴とする請求項2記載の通信端末装置。

【請求項4】 スタンダロン状態にて、前記データ無効化手段により無効化されたカラオケデータに係る曲がリクエストされたときには、カラオケ演奏ができない旨を表示する表示手段を備えることを特徴とする請求項2又は3記載の通信端末装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、ホスト装置との間でのデータ通信が可能な、例えば通信型のカラオケ装置などの通信端末装置に関する。

## 【0002】

【発明が解決しようとする課題】 例えば通信型のカラオケ装置においては、データ端末装置であるカラオケ装置本体に、多数の曲のカラオケデータを記憶する記憶装置(ハードディスク)等を備えると共に、例えば電話回線などの通信網を介してホスト装置との間でのデータ通信を行うためのデータ通信機能を備えて構成されている。そして、このカラオケ装置が、ホスト装置に登録されることにより、例えば新たに制作されたカラオケデータが、随時ホスト装置から送信されることにより、そのカラオケデータが記憶、蓄積されていくようになっている。

【0003】 上記のような通信型のカラオケ装置においては、ユーザーが、出荷状態のカラオケ装置を購入(あるいはリース)すると共に、運用者側(ホスト装置側)とデータサービスの契約を交すことにより、設置処理(電話回線との接続処理等)が行われてホスト装置への登録状態(オンライン状態)となる。この状態で、初めてホスト装置からカラオケデータのサービスを受けることができ、ユーザーは運用者側に対して、例えば月々い

くらといった料金を支払うことにより、データのサービスを継続して受けることができるようになっている。

【0004】 ところで、データサービスの契約は、ユーザーの意思で自由に解消することができるることは勿論である。ところが、例えば短期間でデータサービスを受けられるだけ受け、カラオケデータがある程度蓄積された時点で、その後は契約を解消するといったことがユーザーにより行われると、運用者側の不利益が大きくなる。そこで、従来の通信型カラオケ装置においては、契約が解消されたとき、つまりホスト装置への登録状態が解除されたスタンダロン状態では、それまでに記憶装置に記憶されて蓄積されている全てのカラオケデータを使用不可能とする処理が行われていた。

【0005】 しかしながら、上記のようにホスト装置への登録状態が解除されたスタンダロン状態にて、記憶装置に記憶されている全てのカラオケデータの使用が不可能とされると、ユーザーが折角購入したカラオケ装置が手元にあっても、カラオケ装置としての使用が全くできなくなってしまうことになり、ユーザーにとって酷となる。

【0006】 本発明は上記事情に鑑みてなされたもので、その目的は、ホスト装置への登録状態が解除されたスタンダロン状態となったときでも、ある程度のデータの使用を可能としてユーザー側とホスト装置側との双方の利益調整を図ることができる通信端末装置を提供するにある。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するために、本発明の請求項1の通信端末装置は、データ端末装置本体と、ホスト装置との間でデータ通信を行うための通信手段とを備え、前記ホスト装置に対する登録状態で該ホスト装置からデータのサービスを受けることが可能なものにあって、前記ホスト装置から配達されたデータを記憶、蓄積する記憶手段と、前記ホスト装置への登録状態が解除されたスタンダロン状態では、前記記憶手段に蓄積されたデータのうち一部のデータを有効とし、他のデータを無効化するデータ無効化手段とを具備している。

【0008】 これによれば、ホスト装置に対する登録状態では、該ホスト装置からデータのサービスを受けることができ、そのデータが記憶手段に記憶、蓄積されるようになり、蓄積されたデータを自由に使用することができる。これに対し、ホスト装置への登録状態が解除されたスタンダロン状態では、データ無効化手段により、記憶手段に蓄積されたデータのうち一部のデータを残してデータが無効化されるようになる。従って、スタンダロン状態であっても、一部のデータのみは使用可能とされることになる。

【0009】 この場合、上記データ端末装置本体を、カラオケデータに基づいてカラオケ演奏を実行するカラオ

ケ装置本体から構成することができる（請求項2の発明）。これによれば、記憶手段に、カラオケデータが記憶、蓄積されるようになり、登録状態ではカラオケ演奏可能な曲数をどんどん増やしていくことができ、また、スタンドアロン状態となつても、一部の曲はカラオケ演奏が可能となっているので、カラオケ装置としての一定の使用が可能となる。

【0010】また、このとき、スタンドアロン状態となつときに、据付時に記憶手段に予め記憶されていたカラオケデータのみを有効とする構成としても良い（請求項3の発明）。これによれば、据付時に記憶手段に予め記憶されていたカラオケデータは常に使用可能状態が維持され、カラオケ装置のユーザーにとっての一定の利益が確保されるようになる。

【0011】さらには、スタンドアロン状態にて、前記データ無効化手段により無効化されたカラオケデータに係る曲がリクエストされたときには、カラオケ演奏ができない旨を表示する表示手段を設ける構成としても良い（請求項4の発明）。これによれば、カラオケ装置の使用者に、所定の曲についてはそのデータが無効化されてカラオケ演奏ができない旨を、判りやすく知らせることができる。

#### 【0012】

【発明の実施の形態】以下、本発明を通信型のカラオケ装置に適用した一実施例（請求項1～4に対応）について、図面を参照しながら説明する。図2は、本実施例に係る通信端末装置たる通信型のカラオケ装置1のハードウェア的構成を概略的に示しており、また、図3は、そのカラオケ装置1を多数台含んでなるデータ通信システムの構成を概略的に示している。

【0013】ここで、図2に示すように、カラオケ装置1は、データ端末装置本体であるカラオケ装置本体2と、通信手段たるモ뎀等の通信装置3とを備えている。前記カラオケ装置本体2は、装置全体の制御を行うCPU等を含んでなる制御装置4に、記憶手段たるハードディスク装置等の記憶装置5、キー入力装置6、音声入力装置7、演奏出力装置8、表示制御装置9等を接続して構成されている。また、前記通信装置3も、制御装置4により制御されるようになっている。

【0014】そのうち前記記憶装置5には、多数の曲のカラオケデータ（演奏データ及び歌詞データ）が記憶される曲データ格納部が設けられるようになっている。また、これと共に、この記憶装置5には、後述するカラオケデータ管理テーブル（図5参照）が設けられるようになっている。そして、前記キー入力装置6にはリモコン10が接続され、前記音声入力装置7にはマイク11が接続され、前記演奏出力装置8にはスピーカ12が接続され、表示制御装置9には表示手段たるTVモニタ13が接続されるようになっている。

【0015】これにて、前記制御装置4は、使用者がキ

ー入力装置6あるいはリモコン10によって所望の曲をリクエストすると、記憶装置5からリクエスト曲のカラオケデータを読み出し、演奏出力装置8を介してスピーカ12から演奏音を出力させると共に、このときマイク11から音声入力装置7を介して入力された歌唱音声をミキシングしてカラオケ演奏音と共にスピーカ12から出力させるようになっている。さらに、制御装置4は、そのカラオケ演奏に合わせて、図示しないCDプレーヤからその曲に応じた背景画像を読み出し、表示制御装置9を介して歌詞と共にTVモニタ13に表示させるようになっている。

【0016】そして、図3に示すように、カラオケ装置1は、前記通信装置3により、例えば電話回線等の通信網14を介してホスト装置（ホストコンピュータ）15との間のデータ通信が可能とされている。前記ホスト装置15は、多数個のカラオケ装置1を管理し、例えば新曲のカラオケデータが制作されると、各カラオケ装置1に対してそのカラオケデータの配達を行うようになっている。カラオケ装置1においては、配達されたカラオケデータが、記憶装置5に蓄積されていくようになっている。

【0017】この場合、上記のような通信型のカラオケ装置1においては、図4に示すように、ユーザーが、出荷状態のカラオケ装置1を購入（あるいはリース）すると共に、運用者側（ホスト装置15側）とデータサービスの契約を交すことにより、設置処理（通信網14との接続処理等）が行われてホスト装置15への登録状態（以下、オンライン状態という）となる。このオンライン状態で、初めてホスト装置15からカラオケデータのサービスを受けることができ、ユーザーは運用者側に対して、例えば月々いくらといった料金を支払うことにより、データのサービスを継続して受けることができるようになっている。

【0018】また、データサービスの契約は、ユーザーの意思で自由に解消することができることは勿論であり、通信停止処理により登録が解除され、以て、データサービスを受け得ない（通信を停止した）スタンドアロン状態となる。カラオケ装置1の制御装置4は、上記3つの状態（出荷状態、オンライン状態、スタンドアロン状態）のいずれにあるかを、状態フラグによって自ら判断できるようになっている。尚、本実施例においては、上記出荷状態では未だカラオケ演奏は不可能とされる、つまり設置処理が行われて初めてカラオケ演奏の実行が可能となる。

【0019】さて、前記制御装置4は、そのソフトウェア的構成により、スタンドアロン状態となつときは、前記記憶装置5に記憶、蓄積されているカラオケデータのうち、一部のカラオケデータを有効（演奏処理可能）とし、他のカラオケデータを無効化（演奏不可能）するようになっており、もってデータ無効化手段として

機能するようになっている。

【0020】具体的には、制御装置4は、記憶装置5に図5に示すようなカラオケデータ管理テーブルを備えている。このカラオケデータ管理テーブルには、運用者側(ホスト装置15側)が定めたカラオケ曲の曲番号(6桁)と、各曲番号に対応するカラオケデータが存在するか否かを示すデータ存在フラグ(データ有りが「1」、データ無しが「0」)と、各曲番号に対応するカラオケデータがスタンダロン状態において有効であるか否かを示す有効フラグ(有効が「1」、無効が「0」)とが書込まれる。

【0021】制御装置4は、オンライン状態で新たなカラオケデータのサービスを受けて記憶装置5に記憶されると、その曲番号に対応したデータ存在フラグを「1」とすると共に、有効フラグを「1」とするようになっている。前記データ存在フラグが「1」の曲が、カラオケ演奏可能な曲となるのであるが、カラオケ装置1がスタンダロン状態では、有効フラグが「1」である曲のみが演奏可能となり、有効フラグが「0」の曲は、カラオケデータが存在していても演奏が不可能とされるのである。

【0022】そして、制御装置4は、カラオケ装置1の状態が、オンライン状態からスタンダロン状態に変化した際には、所定の一部の曲番号に対応する有効フラグを「1」のまま残し、残りの曲番号に対応する有効フラグを「0」に書替えるようになっている。

【0023】このとき、本実施例では、カラオケ装置1の出荷時(据付時)には、記憶装置5に標準的なカラオケ曲のカラオケデータ(図5で曲番号の上2桁が「01」のもの、例えば1000曲)が予め記憶されており(この曲をデフォルト曲と称する)、カラオケ装置1がスタンダロン状態に変化したときには、そのデフォルト曲については、有効フラグを「1」のまま残し、残りの曲については、全て有効フラグを「0」に書替えるようになっている。従って、デフォルト曲については、カラオケ装置1がスタンダロン状態でも、カラオケ演奏が可能とされるのである。

【0024】また、本実施例では、スタンダロン状態にて、有効フラグが「0」とされたつまりカラオケ演奏が不可とされた曲がリクエストされたときには、カラオケ演奏ができない旨を、TVモニタ13の画面に表示するようになっている。尚、図4に示すように、カラオケ装置1のユーザーが、スタンダロン状態から再び新曲のカラオケデータのサービスを受けたくなった場合には、再登録を要求することにより、通信再開処理が行われ、再びオンライン状態となる。この状態では、データ存在フラグが「1」とされている全てのカラオケ曲の有効フラグが「1」に復帰されるようになっている。

【0025】上記構成において、カラオケ装置1の使用者によりリクエストがなされたときには、制御装置4

10

20

30

40

40

50

は、図1のフローチャートに示す手順にて、カラオケ演奏処理を実行するようになっている。即ち、まず、ステップS1～S3では、カラオケ装置1の状態フラグが調べられる。ここで、状態フラグが「出荷状態」であるならば(ステップS1にてYes)、上述のように、未だカラオケ演奏は不可能とされるので、ステップS4にて、演奏不可の旨がTVモニタ13の画面に表示される。

【0026】また、状態フラグが「出荷状態」ではなく(ステップS1にてNo)、「オンライン状態」であるならば(ステップS2にてYes)、カラオケ演奏が可能なので、ステップS5にてカラオケ演奏処理が実行される。このカラオケ演奏処理は上述のように、リクエストされた曲のカラオケデータが記憶装置5から読出され、演奏データに基づき演奏音が outputされると共に、歌詞データに基づき歌詞が背景画像に重ねてTVモニタ13に表示され、使用者は、そのカラオケ演奏に合わせて歌唱して楽しむことができる。

【0027】そして、状態フラグが「オンライン状態」でもないときには(ステップS2にてNo)、ステップS3にて、「スタンダロン状態」かどうかが判断される。「スタンダロン状態」であるときには(ステップS3にてYes)、次のステップS6にて、リクエスト曲の有効フラグが「1」かどうかが判断される。ここで、上述のように、スタンダロン状態では、有効フラグを「1」のまま残したデフォルト曲のみが有効(演奏可能)となるので、リクエスト曲がデフォルト曲であるときには(ステップS6にてYes)、カラオケ演奏処理が実行される(ステップS5)。

【0028】これに対し、有効フラグが「1」でないとき、つまりスタンダロン状態となったときに無効化された曲がリクエストされた場合には(ステップS6にてNo)、カラオケ演奏(カラオケデータの使用)が不可とされるので、ステップS7にて、演奏不可の旨がTVモニタ13の画面に表示される。尚、状態フラグが、上記3つの状態のうちいずれでもないときには(ステップS3にてNo)、何らかの異常が生じていると考えられるので、ステップS8にて、異常処理が実行される。

【0029】このような本実施例によれば、通信型のカラオケ装置1において、ホスト装置15への登録状態が解除されたスタンダロン状態でも、一部のカラオケデータは有効とされ、デフォルト曲についてはカラオケ演奏が可能とされる。従って、従来のような記憶装置に記憶されて蓄積されている全てのカラオケデータを使用不可能にするものと異なり、ユーザーは、購入したカラオケ装置1の一定の使用が可能となり、ユーザーの利益を守ることができる。

【0030】この場合、記憶装置5に記憶されているカラオケデータのうち、設置後にサービスされたカラオケデータについては、スタンダロン状態では使用可能と

なるので、通信カラオケの運用者（ホスト装置15側）における利益も確保することができる。この結果、ユーザー側とホスト装置側との双方の利益調整を図ることができるものである。

【0031】尚、上記実施例では、本発明を通信型のカラオケ装置1に適用するようにしたが、本発明は、通信型カラオケ装置1以外にも、例えばホスト装置からパソコンソフトやTVゲームソフト等が配達されるものや、音楽、映画、広告など各種のデータサービスを受けるものなど、各種の通信端末装置に適用することができる。その他、本発明は上記実施例に限定されるものではなく、要旨を逸脱しない範囲内で適宜変更して実施し得るものである。

【0032】

【発明の効果】以上の説明にて明らかなように、本発明の通信端末装置によれば、ホスト装置に対する登録状態で該ホスト装置からデータサービスを受け得るものにあって、ホスト装置への登録状態が解除されたスタンダーラン状態となったときでも、記憶手段に記憶、蓄積され\*

\*たデータのうち一部のデータは有効とされるので、ある程度のデータの使用を可能としてユーザー側とホスト装置側との双方の利益調整を図ることができるという優れた実用的効果を奏するものである。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示すもので、カラオケ演奏処理の手順を示すフローチャート

【図2】カラオケ装置の構成を示すブロック図

【図3】データ通信システムの概略的構成を示す図

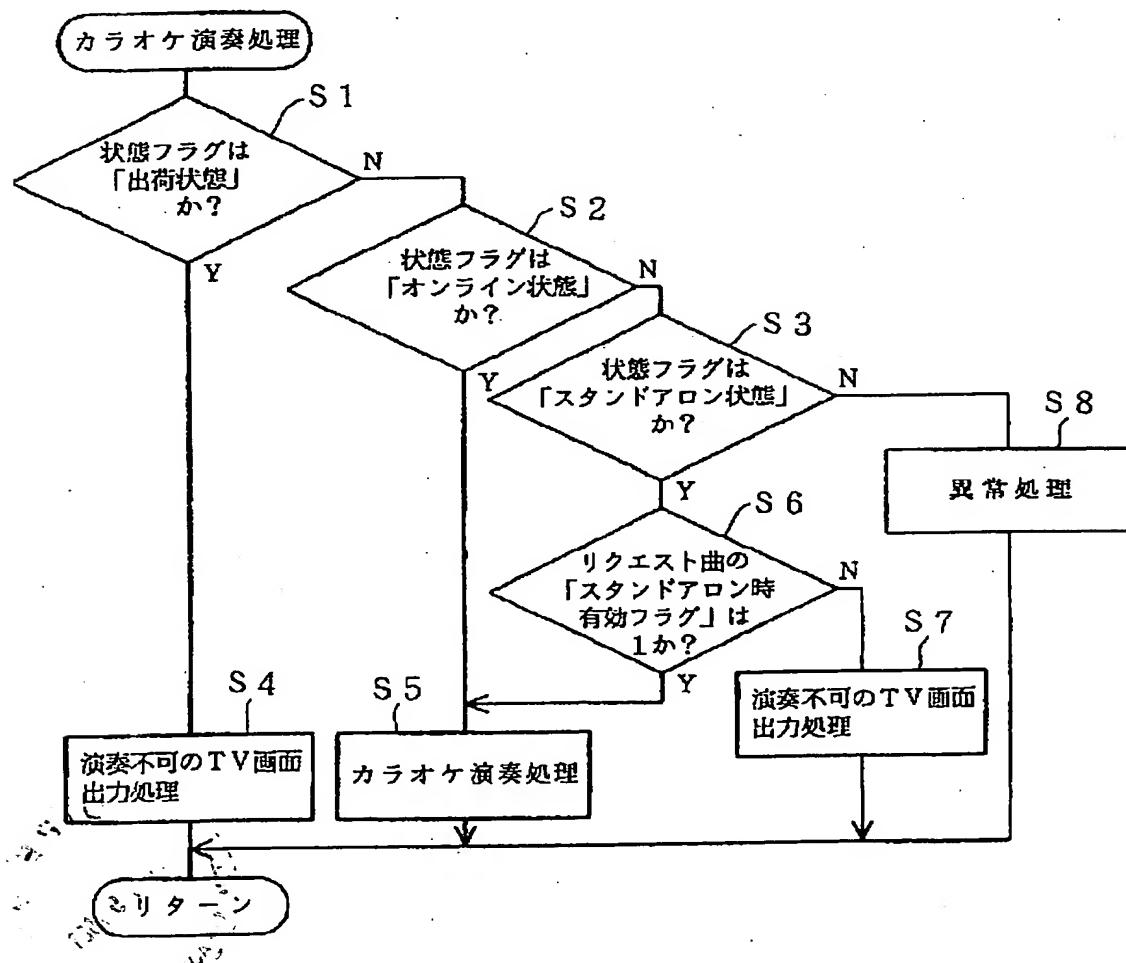
【図4】カラオケ装置の状態遷移の様子を示す図

【図5】カラオケデータ管理テーブルのデータ構成を模式的に示す図

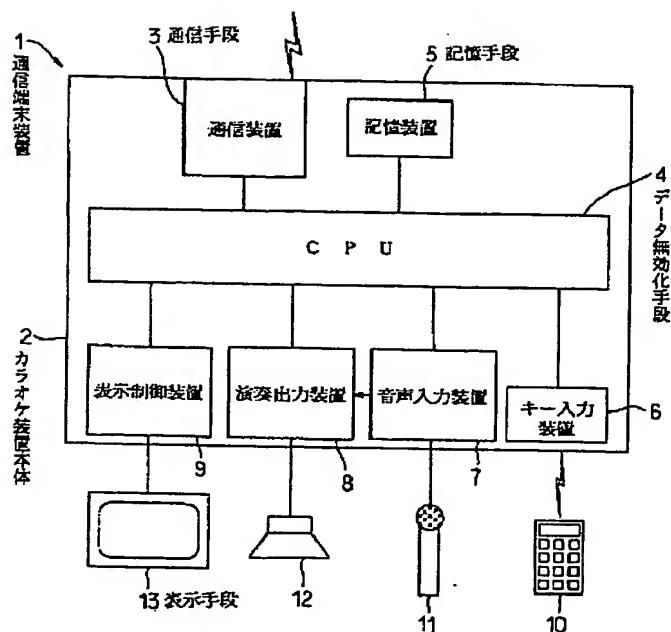
#### 【符号の説明】

図面中、1はカラオケ装置（通信端末装置）、2はカラオケ装置本体（データ端末装置本体）、3は通信装置（通信手段）、4は制御装置（データ無効化手段）、5は記憶装置（記憶手段）、13はTVモニタ（表示手段）、14は通信網、15はホスト装置を示す。

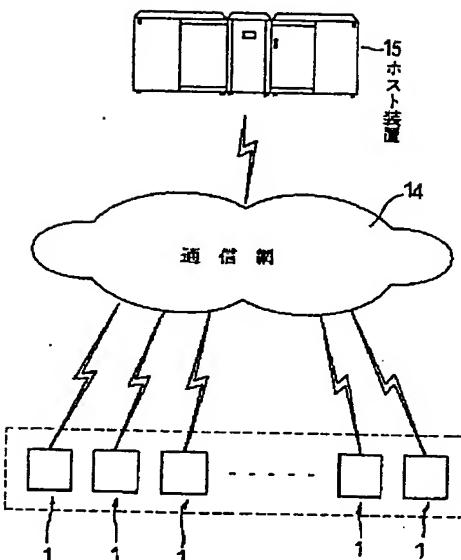
【図1】



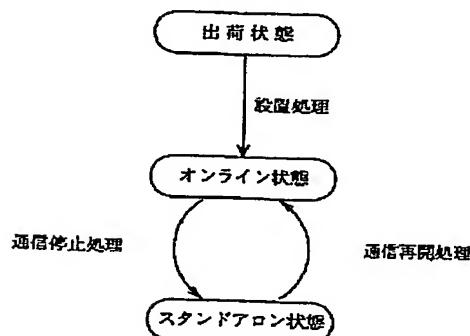
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

曲番号	曲データ存在フラグ 有:1、無:0	スタンドアロン時 有効フラグ
01-0001	1	1
01-0002	1	1
01-0003	1	1
01-1000	1	1
02-0001	0	0
02-0002	0	0
09-1000	0	0

